



INTERNATIONAL
ICE HOCKEY
FEDERATION

2014 IIHF NEW RULES WORKSHOP

Frankfurt, Germany, June 13, 2014

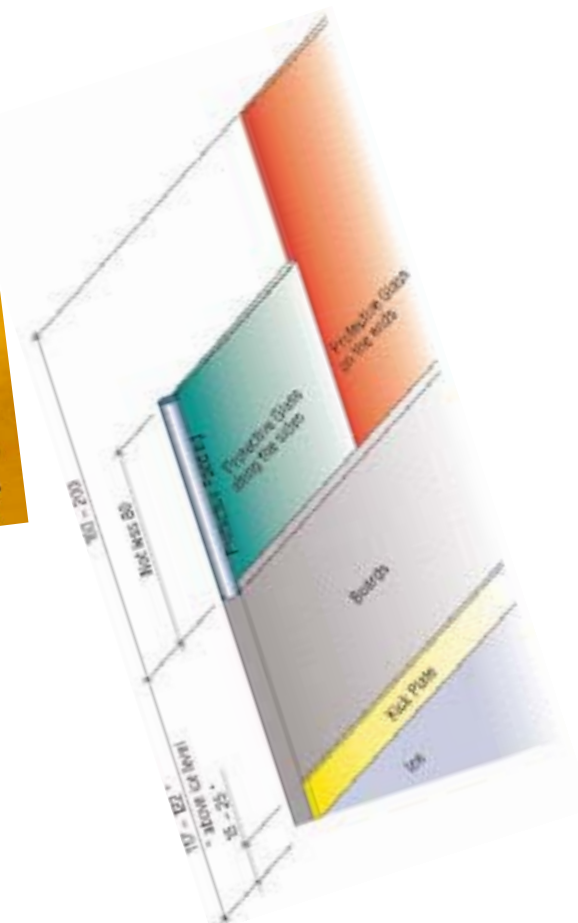
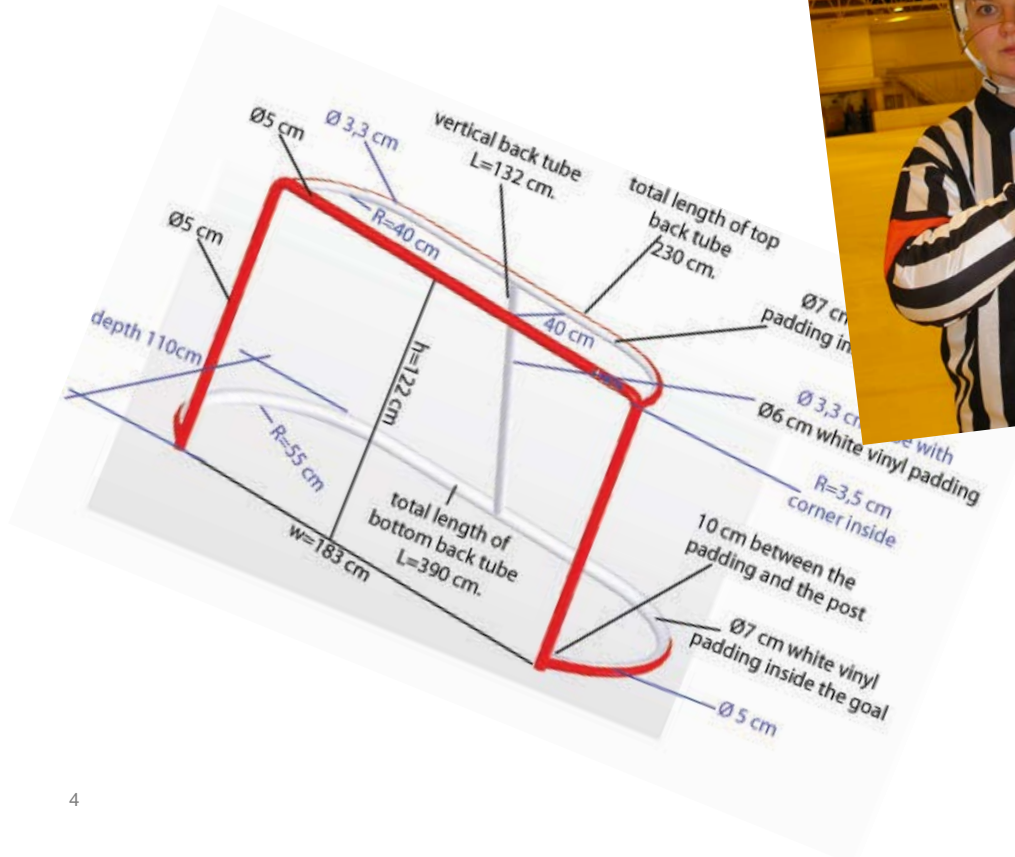
新ルールワークショップの目的

- 新しいIIHFルールブックを作成する理由の説明
- ルールブックの進化、発展の歴史を振り返る。
- ルールブックの新しいレイアウト、構成、内容の説明
- ルールの文言修正、マイナーチェンジの概要の説明
- ルールのメジャーチェンジに関するディスカッション、新ルールに慣れる。
- 各種大会におけるIIHFオフィシエイティング・スタンダードを説明する。

IIHFルールブックー進化と発展

- 1998/99シーズンにてIIHFルールブックが新しいデザインと形式を導入し既存のルールが新しく書き直された。
- 新しいA5サイズのルールブックにはカラー写真、表、図面、色文字が活用された。
- ルールページの対となるページにノート欄が設けられた。
- 「全情報を一冊」とし、全年代、全競技者を対象とした。
- 新バージョンでは参考として補足情報が拡張された。

進化と発展



**... 概ね現在のIIHFルールブックは良い
情報源であった。16シーズンも活用され、
26の言語で発行された...**

... but, there are drawbacks しかし欠点も出てきた



- 重複している情報でその他のIIHF発行書面と矛盾する点が出てきた。
- 一貫性のない表現や矛盾点が増えてきた。
- ルール解釈に関する通知が重なり、回数も増え、IIHFケースブックの拡張が必要となった。
- ゴールキーパー用具の計測が定期的に必要となり、その頻度も増した。
- 図面、表、写真が古くなってきた。
- 現行ルールブックの構成ではルール説明や適用に関する重要な情報が全て含まれていない。

IIHFルール コンgress概要

- 2014 IIHFルールブックの作成が遅れている。
- 2013 IIHF加盟国は現理事の選挙(2012年9月)と委員会委員決定が2013年1月まで遅れる為、ルール改正提案の提出を通常より1年間遅らせることを承認した。
- ルール改正提案を受け付けたところ86件のルール提案があり、うち55件は既存ルールの改正、2件の新ルール導入であった。
- これらの提案のうち4件は委員会検討事項とされ、12件は提案した加盟国が取り下げ、51件は文言修正・マイナーチェンジ案件として扱われた。19件はメジャーチェンジとして競技の特性を大きく左右する「ゲーム・チェンジャー」案件として扱われた。

The 2014 IIHF Rule Book: 新しいレイアウト、掲載 内容・構成に関する概念





INTERNATIONAL
ICE HOCKEY
FEDERATION

2014 IIHF 文言修正 & マイナールール改正概要

文言修正・マイナーチェンジ概要

- 2ヶ月の加盟国による提案内容の確認期間を経て51件の文言修正・マイナールール改正案件は先般のIIHF年次総会にて全会一致で承認された。



- 次の点に変更された ...

Rule Upgrades During the 2013/14 Season



Housekeeping and Minor Rule Change Summary



- 試合中に資格を有さない選手を退場させる手順が承認。
- 身長2m超選手のスティックの長さについて承認
- ワンピースのGKグローブが承認
- 機能しているビデオゴールジャッジシステムがある場合、ゴールジャッジは不要となった。
- パックのアウト・オブ・バウンズルール適用の説明
- 相手選手を意図的に脚を使って激しく転倒させる、スルーフットイングルールが承認
- 選手やチームオフィシャルによるゲームオフィシャルへの暴力・暴言・侮辱行為の適用に関する明文化
- GK用具サイズをIIHFルールブックから削除
- ルールブックから「いさかい」という表現を削除
- インターフェアレンスルールにおけるボディポジションの明確化
- 頭部・首へのチェックに関する明確化
- アンスポーツマンライク・コンダクト ペナルティの導入
- 破損スティックルール適用の明確化
- ゴールネットが外れた時の得点を認める際の明確化

メジャールール改正の概要

- メジャールール改正19件がベラルーシ・ミンスクで開催されたIIHF年次総会で提案された。
- IIHF副会長ボブ・ニコルソンの指導のもと、ワークショップセッションが実施され出席した64の加盟国が参加した。
- 19件の提案のうち12件が却下され、7件が導入された。



INTERNATIONAL
ICE HOCKEY
FEDERATION

2014 IIHFメジャールール改正 概要

101 – リンクの寸法

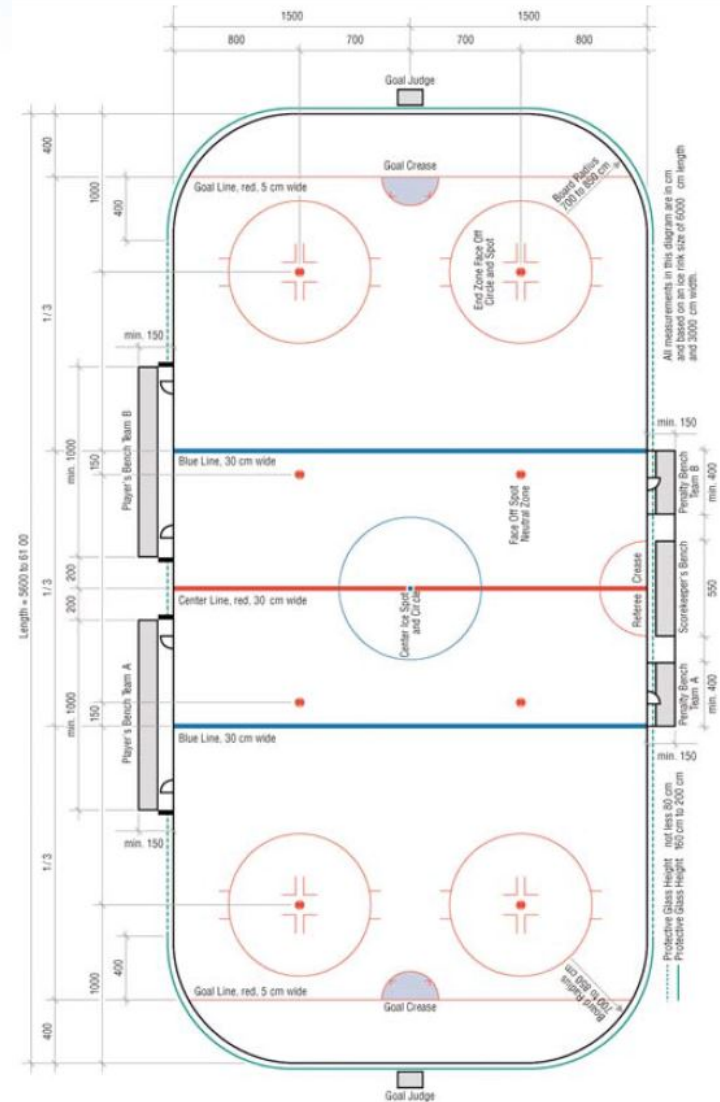


現行ルール及び新ルール

公式大会では長さ60m～61m、幅 29m～30mとする。

公式大会では長さ60m × 幅26m～30mとする。世界選手権では30m × 60m とする。その他の寸法はIIHFの事前承諾が必要

承認



102 – Boards

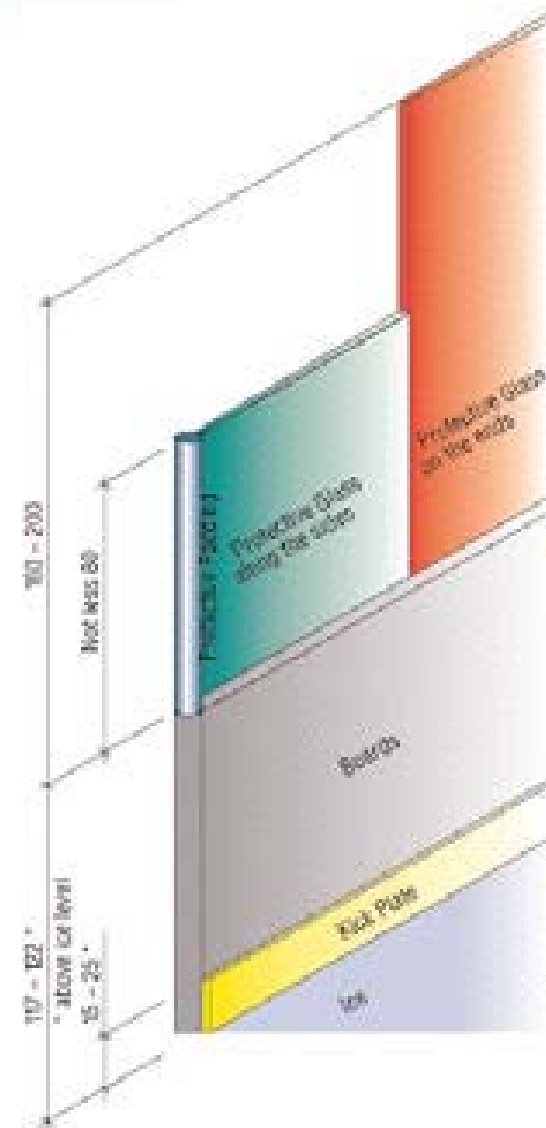


現行ルール及び新ルール

b) ボードの高さは氷面から高さ1.17m以上、1.22m以下とする。

b) 氷面から高さ1070mmとする。ダッシャーボードの高さはコンクリート厚板(床)からボード天辺までを計測し、1100mmとする。

承認



105 – Protective Glass



現行ルール及び新ルール

ボードの上の保護ガラスの高さは、エンド沿いおよびゴールラインからニュートラルゾーンに向かって4mの間は160cm～200cm、プレイヤーズ・ベンチの前を除くサイド沿いは80cm以上とする。。

- a) 保護シールド(観客シールド)はアクリル素材のシールドシステムもしくはそれと同等のシステムとし、選手への負傷リスクを軽減する為、反動効果がなく、適した柔軟性がある素材とする。
- b) ボードの上に位置する保護シールドの高さはエンド及びゴールラインからニュートラルゾーン方面に向けて4mまでの地点は高さ2400mmとし、サイドではプレイヤーズベンチ前を除き、高さ1800mmとする。
- d) 保護シールドに穴・隙間がないものとするが、レフェリーと会話する為のスコアキーパー前の穴は除く。

承認

112 – Blue Lines

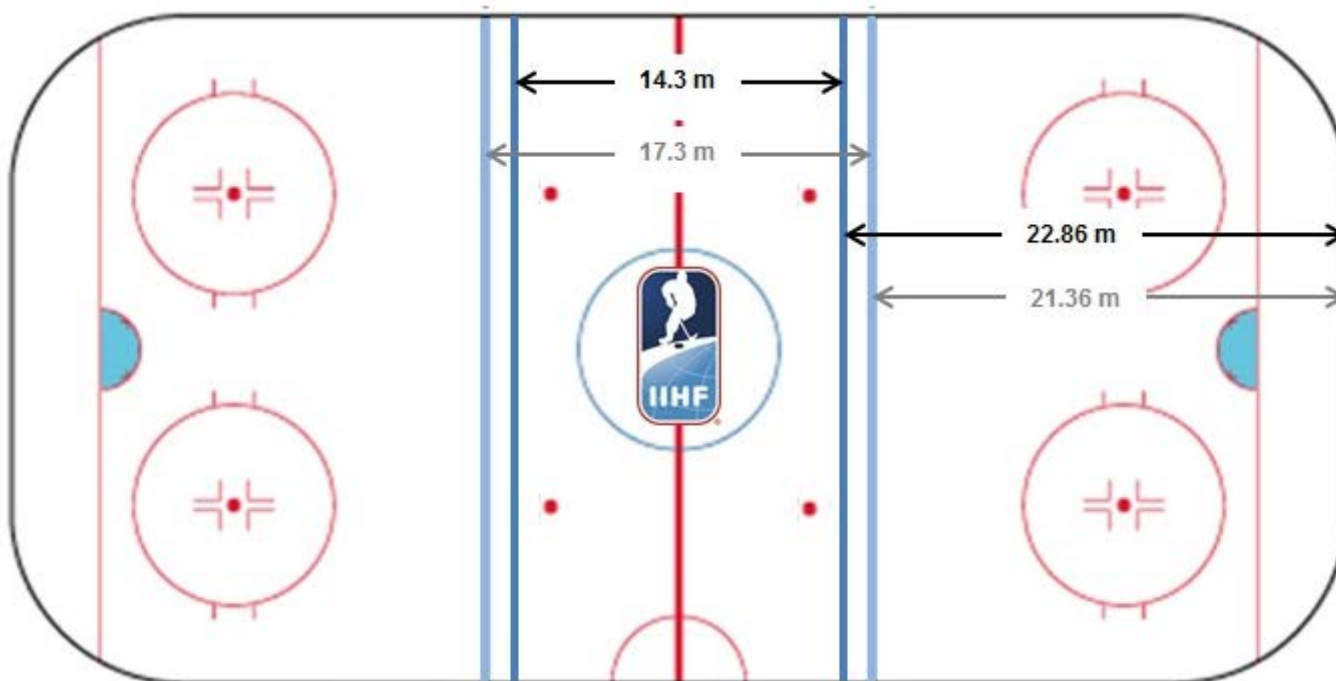


現行ルール及び新ルール

(ゾーンサイズの) 統一化を図る為、オフense/ディフェンスゾーンの寸法を大きくし、エンドボードからブルーライン(中央)までの距離を22.86mとする。

(IF事務局からの回答: リンクサイズが短い場合でもエンドからBL中央まで22.86mとし、ニュートラルゾーンで調整する。)

承認



411 – プレイヤーとゴールキーパー交代



現行ルール及び新ルール

b) 交代の際、退くプレイヤーがまだ氷上にいる間に、交代出場するプレイヤーがパックをプレイしたり、相手と身体的に接触した場合、トゥー・メニー・プレイヤーズ・オン・ジ・アイス（ベンチマイナーペナルティ）が科せられる。（573条）

b) 交代の際、退くプレイヤー 或いは退く複数のプレイヤーがまだ氷上にいる間に、交代出場するプレイヤー 或いは交代出場する複数のプレイヤー、もしくは退くプレイヤー 或いは退く複数のプレイヤーがパックをプレイしたり、相手と身体的に接触した場合、トゥー・メニー・プレイヤーズ・オン・ジ・アイス（ベンチマイナーペナルティ）が科せられる。

（退く/交代出場するプレイヤー 或いは 退く/交代出場する複数のプレイヤー = Player or **Player**s）

承認



442 – フェイスオフ実施手順



現行ルール及び新ルール

- c) アタッキング・ハーフにいるアタッキング・チームのプレイヤーが先にスティックを氷につけ、ディフェンディング・チームのプレイヤーが速やかに続くものとする。
- c) ディフェンディング・ハーフにいるディフェンディング・チームのプレイヤーが先にスティックを氷につけ、アタッキング・チームのプレイヤーが速やかに続くものとする。

承認



460 – アイシング・ザ・パック:ハイブリッドアイシング



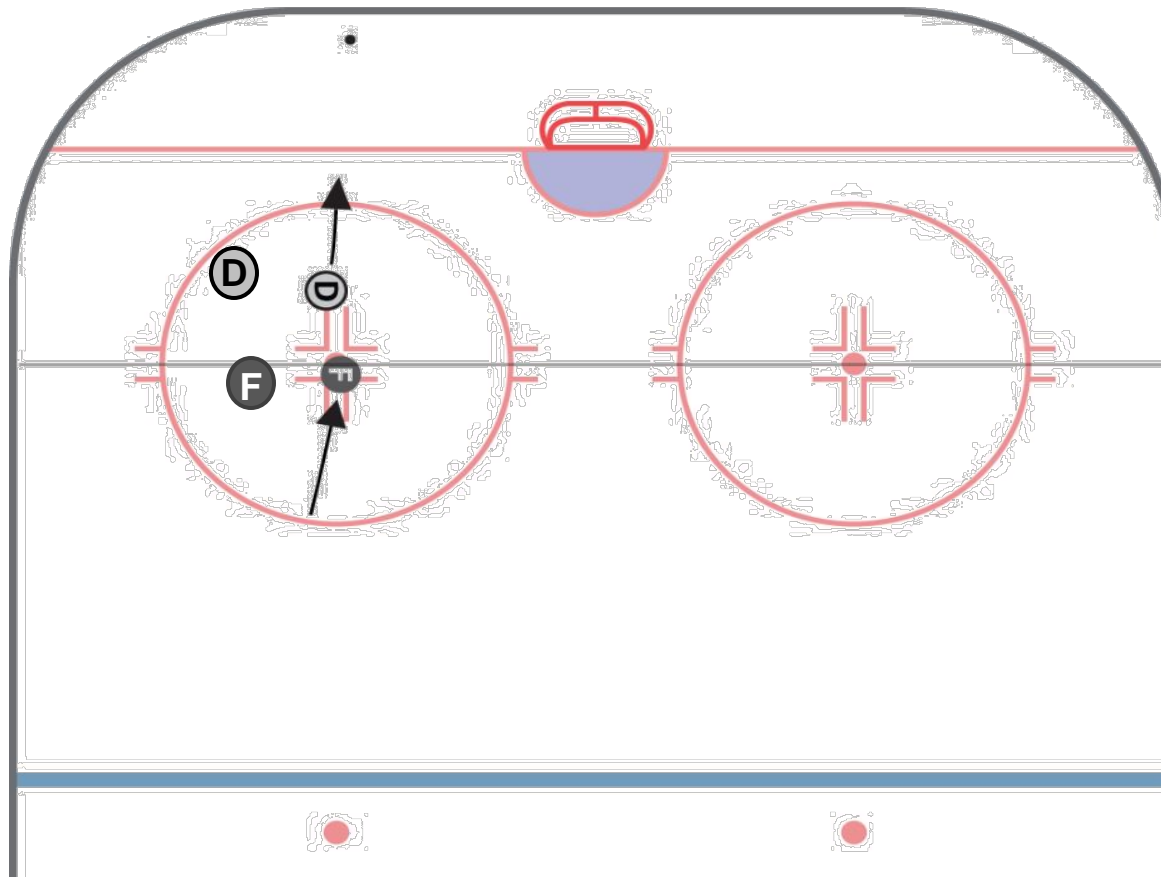
当ルール解釈で「アイシング・ザ・パック」を適用する場合は2つの判断をする必要がある。

1). ラインズマンは第一にパックがゴールラインを越えるかを判断しなくてはならない。ラインズマンがパックがゴールラインを越えると判断した後、どちらの選手(攻撃あるいは守備)が先にパックに触れるかを判断してアイシングの有無が決まる。このラインズマンの判断は最初の選手がエンドゾーンのフェイスオフスポットに到着する時点までに決めなくてはならず、判定要素は選手のスケートとする。

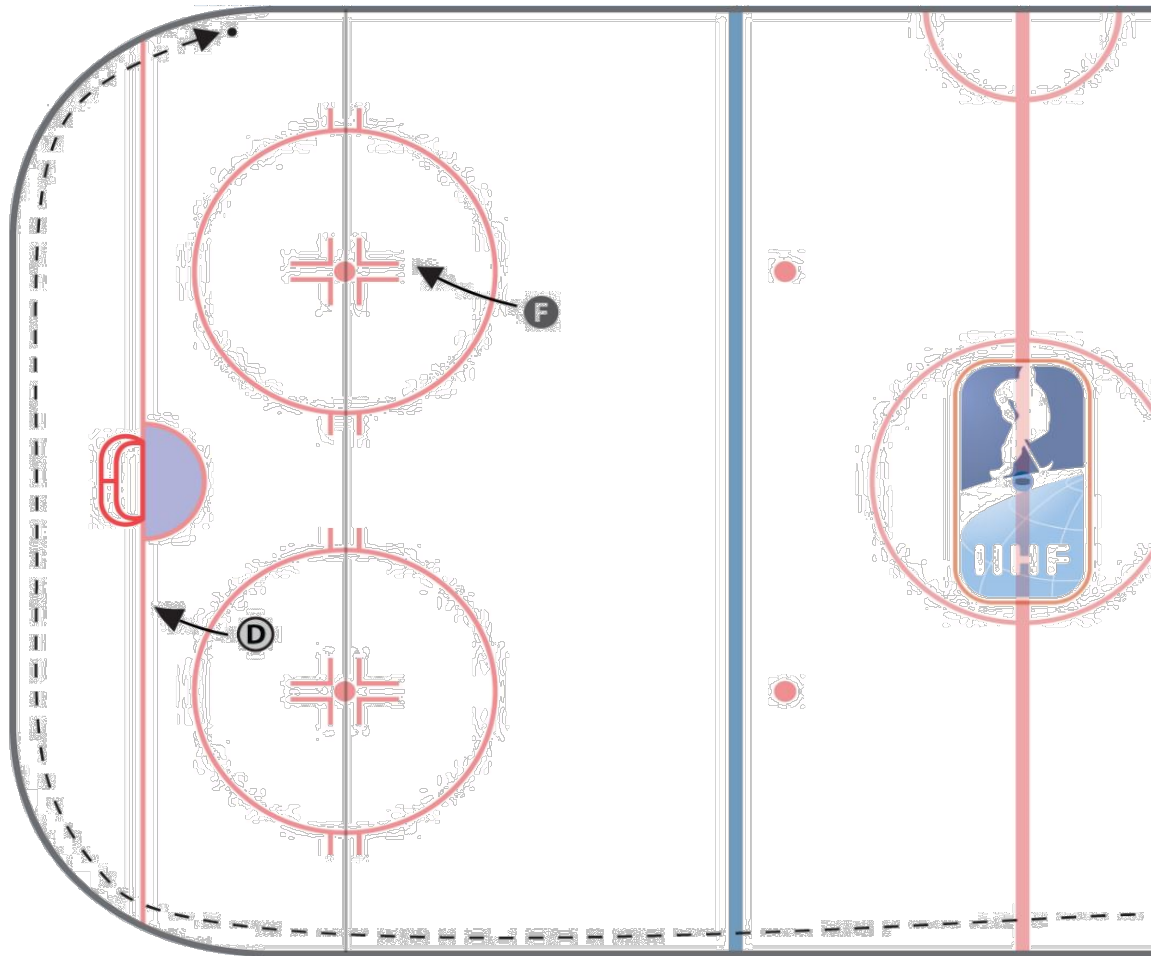
2). パックを奥深くに撃ち、ボード際を廻り、エンドゾーンフェイスオフスポットに向けて戻ってくる場合も、同じ手順でラインズマンが、パックと選手の距離が(距離=パックに触るであろう地点と、最初の選手の位置の距離は、ゴールライン~フェイスオフスポットと似た距離、約8m~12m)安全に保たれて間に、どちらの選手が先にパックに触れるかを判断する。これは、どちらの選手がエンドゾーンフェイスオフスポットに到着するかではなく、どちらの選手が先にパックをプレイするかで判断する。最初の選手がエンドゾーンフェイスオフスポットに到着する時点で、パックまでの競争で誰が先着になるか判断が困難な場合はアイシングとして判定する。

承認

460 – アイシング: ハイブリッドアイシング #1



460 – アイシング: ハイブリッドアイシング#2



509 – ペナルティショットの手順



現行ルール及び新ルール

509条ノートセクション:

6. プレイヤーがゴールに接近して360度回転する動き「スピン・オー・ラマ」は、継続的な前進する動きと見なされ認められる。
6. ペナルティショット（PS） 或いはゲームウィニングショット（GWS）の場面で、プレイヤーがゴールに接近する際、360度回転する動き「スピン・オー・ラマ」やラクロスのような動きで360度の回転をすることは認められない。

承認



The 2014 IIHF Rule Book: Hybrid Icing

